

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

沖洲学校
「学力向上実行プラン」

- ① 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善・充実
- ② 自ら学び、自ら考える子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 宮下 鉄矢	委員 校長 林 哲史 教頭 橋本 賢治 研修主任 長野 麻衣 6学年 岩佐 壽子 5学 年 長野 麻衣 4学年 八島 美穂 3学年 馬越 敦子 2学年 福井 優美 1学年 濱條 敦代
--------------------------	--

校長

林 哲史

【小中連携または中高連携における共通の取組】

夢をえがく力の育成

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、学力向上委員会等の機会において、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている。」(以下Aとする)の肯定的意見は、5・6年生で86.3%であった。 ●ICT機器のよりよい使用方法を検討しながら、活用する。	・学習課題にしっかりと取り組み、国語・算数の基礎的・基本的な学習内容を確実に習得できる。	・聞き方・話し方スキルを提示し、話を理解しながら聞き、自分の意見を進んで話す態度を育てる。Aの90%以上を目指す。 ・TT指導の工夫、ICT機器の積極的な活用 ・前時からの継続を大切にする。 「めあて」の提示と「見直し」の確認をする。	・取組の継続 ・タブレットのさらなる使用・定着を図る。 ・学習したことを、振り返る時間をしっかりととり、その授業の学習内容を確実に定着させるように取り組む。	全国学力テストの算数以外は、県ステップアップテストでも結果が県平均を下回っており、年度後半は、より基礎基本の学習に取り組んだ。「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている」は前年から+1.4%。	令和5年度は「授業中、先生や友達の話をきちんと聞いている」の肯定的意見は、5・6年生で87.7%であった。令和6年度も90%以上を目指す。 ・タブレットの更なる使用・定着を目指す。

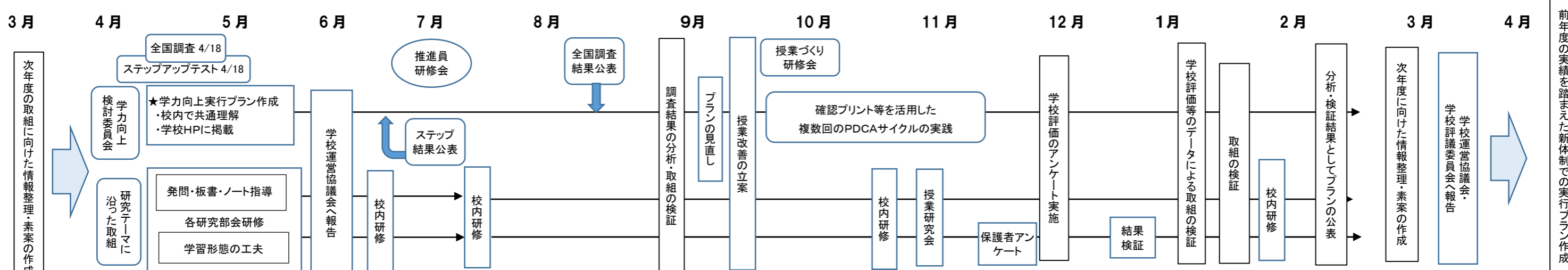
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○対話や話し合い活動は実践しにくい状況にあったが、成果物の掲示や、タブレットを使い表現することができていた。 ●「授業中、進んで発表しようとしている。」(以下Bとする)の肯定的意見は、5・6年生で43.0%であった。	・自分の考えをもち、話したり、書いたりして、相手に分かりやすく表現することができる。	・話し方スキルを提示し、声の大きさに気をつけながら、きちんと話す態度を育てる。Bの55%以上を目指す。 ・学習活動の中で、自分の考えを筋道を立てて文章に書いたり、表現したりする機会を意図的に設ける。	・取組の継続 ・タブレットのさらなる使用・定着を図る。 ・話し方ナビにさらに着目させて、自分と他者との意見を比較して、考えたり、発表させたりすることで、深い学びにつなげる。	「授業中、進んで発表しようとしている」は前年から+12.1%。昨年度は、コロナ禍において、話し合い活動が制限されていたことが影響されていたと考えられる。	令和5年度は「授業中、進んで発表しようとしている」の肯定的意見は、5・6年生で55.1%であった。令和6年度は60%を目指す。 ・タブレットの更なる使用・定着を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○めあてを確認してからの学習は、児童の中にも定着しつつある。 ●「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする。」(以下Cとする)の肯定的意見は、5・6年生で82.5%であった。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・宿題や課題はきちんと提出することができ、家庭学習や自主学習に進んで取り組むことができる。	・めあての提示、見直しをもった自力解決や学び合い、まとめや振り返りという学習の流れを大切にする。 ・「家庭学習の手引き」を提示し、家庭との連携を深めながら、家庭学習の習慣を定着させる。 ・授業中や帰りの会等で家庭学習の内容に触れる。Cの85%以上を目指す。	・取組の定着 ・タブレットのさらなる使用・定着を図る。 ・家庭学習の定着が不十分だったり、学習理解が不十分だったりする児童には、可能な範囲で宿題の調整	「授業(勉強)はよく分かる」では、前年から+1.4%。「家庭でも毎日勉強し、宿題をきちんとする」は前年から+2.8%。	令和5年度は「家庭でも、毎日勉強をし、宿題をきちんとする」の肯定的意見は、5・6年生で85.3%であった。令和6年度も85%以上を目指す。 ・タブレットの更なる使用・定着を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ



前年度の実績を踏まえた新体制での実行プラン作成

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ホワイトボードを使った話し合いやノートを使った振り返りの仕方について、統一したものを作成して取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れられたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつぶやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

